

葉養正明先生のご退職に当たって

会沢 信彦

葉養正明先生は、2014（平成26）年4月、平澤茂先生の後任として、教育学部心理教育課程に着任されました。先生と私とは専門がまったく異なりますが、私のような者でも葉養先生のお名前だけはよく存じておりました。私は、そのような偉大な先生と仕事をご一緒させていただけることに、感動と喜びを禁じ得ませんでした。4月オリエンテーションの際、学生に対して、だいたい興奮気味に先生をご紹介したことを良く覚えています。

私なりに、先生との思い出を、感謝の気持ちを込めて4点ご紹介したいと思います。

第1に、研究者としての先生についてです。先生は、教育行政学、教育社会学、教育制度学、教育経営学がご専門ですが、近年は特に2つのテーマの研究を進めておられたようです。1つは、「人口減少社会における義務教育拠点の持続と学校制度形態の研究」です。先生は学校統廃合に関する第一人者として、マスコミの取材を受ける機会も少なくありませんでした。もう1つは、「東日本大震災における教育復旧復興過程と子どもの生活と学習の環境変化に関する調査研究」です。先生は実際に岩手県宮古市に何度も足を運ばれ、研究を進めておられました。その背後には現地の子どもたちや学校に対する温かいまなざしが感じられました。

第2に、先生の学外での膨大なお仕事についてです。「社会的な活動」をご覧いただければお分かりの通り、国や地方自治体で数多くの委員（多くの場合委員長）を務められました。教育政策の立案や実施に当たって、先生の高いご見識と豊富なご経験が必要とされたのだと思います。特に、2016（平成28）年から3年間にわたって足立区教育委員会教育委員・教育長職務代理をお務めになられたことで、東京あだちキャンパスの開設を控えた本学と足立区との大きな架け橋になってくださいました。

第3に、教育者としての先生についてです。先生は、これだけのお仕事をされながら、学生を大事にされ、また学生をよくご存じでした。先生はしばしば、課題のある学生について、ゼミ学生のみならず、「学びのポートフォリオ」の面談を行っただけの学生についても、課程会議でその状況や背景を詳細に報告してくださいました。また、ある年には、ゼミの学生を文部科学省庁舎へ見学に連れて行かれたという話も伺いました。学生にとって思い出に残る貴重な体験になったはずです。

第4に、本学での校務についてです。2015（平成27）年から2年間、大学院教育学研究科長を務められ、研究科の発展に尽力されました。また、2017（平成29）年から現在まで学長補佐を務められ、東京あだちキャンパスの開設に向けて大きな役割を果たされました。そして、心理教育課程においては、実習巡回等の校務を積極的に担ってくださいました。さらに、幼稚園教育実習を行う学生の増加に伴って今年度からの実習先確保が大きな課題でしたが、先生は、足立区教育委員会に働きかけるとともにご自身が積極的に幼稚園を訪問され、数多くの足立区の私立幼稚園を実習先として開拓してくださいました。この点に関しては、課程長として先生に感謝してもしきれません。

先生は、課程会議では多くは発言されませんでした。ここぞという時には、東京学芸大学をはじめとするこれまでのさまざまなご経験を踏まえた的確な助言をしてくださいました。私は、先生と心理教育準備室などでよく立ち話をさせていただきました。先生のご研究について、あるいは国レベルでのお仕事に関して、お話をお聞きするのが私にとっては胸躍るような時間でした。

先生は、これからもご研究やさまざまなお仕事にますます励まれることと思います。先生と立ち話が

できなくなるのは寂しい限りですが、これからは学外から本学を見守っていただければと願っています。

(あいざわ のぶひこ 文教大学教育学部心理教育課程)